



**日本氷上スポーツ学会
第2回研究大会（WEB 研究発表大会）**

<https://2020.jasiss.jp/>

2020年6月28日（日）10：00 ～ 2020年7月5日（日）10：00



主催：日本氷上スポーツ学会

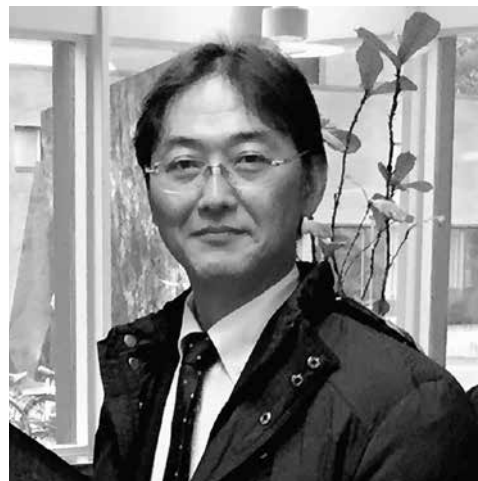
ご挨拶

第2回研究大会開催に寄せて

日本氷上スポーツ学会 会長 小野島 真

日本氷上スポーツ学会は、2020年4月より新たな事業年度を迎えることになりました。前年度は、2回の講演会開催、筑波大学にて初めての研究大会開催、そして、学会誌である『氷上スポーツ研究』創刊号を発行することができ、学会として順調に第一歩を踏み出すことができました。まずは会員の皆様をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。

しかしながら、新たな年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国に緊急事態宣言が発出される中での、まさに嵐の最中での船出となりました。まずは、この感染症によりお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、感染症に罹患した方々をお見舞い申し上げます。また、この感染症の拡大により、経済的なことも含め、多くの人の生活に多大なる影響が及んでいます。当然、アスリートも例外ではなく、試合のほとんどが延期ないしは中止となり、普段の練習も不自由を強いられているかと思います。このようななか、学会としてどのようなメッセージを伝えることができるのか、多くを考えさせられるなかでの新年度のスタートとなりました。



このような情勢下において、予定していた第2回研究大会について、理事会にて検討を重ねた結果、オンラインにて実施することになりました。準備時間があまりない中での開催であり、会員の皆様には何かとご不便な点があるかと思いますが、オンライン研究大会の開催に何卒ご協力のほどお願いいたします。特にこの研究大会では、フォーラムを通して、この新型コロナウイルス感染症拡大の中、そして、経済社会システムの大きな変革が予想されるアフターコロナの時代に、スポーツに何ができるかについて討論される予定です。オンラインでの開催となりますが、是非ともご覧いただけたら幸いです。また、多くの方にも関心が高い、冬季競技の用具についても、専門家に議論していただく予定となっております。こちらもご期待下さい。

多くの皆様と一つの場所に集まり、交流できないのは大変残念ではございますが、この試みが、学会の新たな発展に繋がることを願っております。会員の皆様のご健康とご多幸を祈念しつつ、主催団体代表の挨拶とさせていただきます。

開催要項

日本氷上スポーツ学会第2回研究大会（オンライン開催）

1. 趣旨

第2回研究大会では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンラインでの開催とし、一般報告やフォーラムなどを通して氷上スポーツの現状と課題について共有を図るとともに、スポーツが社会にできる貢献と活動のあり方を展望します。

研究者に限らず、氷上スポーツのさらなる発展に関心のある学生や指導者、競技団体、行政、産業界など、種目・専門・立場の異なる多様な方々の参加を望んでおります。

2. 主催

日本氷上スポーツ学会

3. 日時

2020年6月28日（日）10:00 ～ 2020年7月5日（日）10:00

4. 参加費

学会会員：無料

一般非会員：1000円

5. 研究大会ホームページ

<https://2020.jasiss.jp/>

6. お問い合わせ

電子メールにて以下へお願いします。

日本氷上スポーツ学会第2回研究大会実行委員会

Mail: 2020@jasiss.jp

7. プログラム

◆一般発表

- ・ポスター PDF 形式による発表

◆フォーラム

- ・動画による配信

「新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート」

ファシリテーター：荒井弘和（法政大学 文学部心理学科）

登壇者：友野一希（フィギュアスケート）/ 鈴木世奈（アイスホッケー女子）

「冬季競技の用具に関する特性」

フィギュアスケート（武田理 筑波大学スポーツ R&D コア）

スピードスケート（伊藤潤二 山梨学院大学スケート部顧問）

スケルトン（進藤亮祐 日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟スケルトン強化部部長代行）

WEB 一般発表の実施について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日本氷上スポーツ学会第2回研究大会をオンライン形式で実施いたします。

つきましては、一般発表をオンライン上のポスター発表で実施いたします。

本学会の一般発表の取り扱いに関しまして、抄録原稿（500文字以内）とポスター原稿の双方を実施することで、成立するものといたします。

【手順1】 抄録原稿と顔写真の提出

◆提出期限：2020年6月5日（金）

◆提出方法：日本氷上スポーツ学会の専用フォーム（参加申込者に自動返信メールにて通知）から提出してください。

◆書式

演題（必要に応じて副題）を記載してください。

研究者は、氏名（所属）で記載してください。 例）氷上太郎（日本氷上スポーツ大学）

総文字数全角 500文字以内で入力してください。

改行後の空白も文字数に含まれます。

原稿は文字（テキスト）のみとし、図表や写真等を含めることはできません。

肩文字、斜字体などの修飾文字は使用できません。

句読点は「、」「。」を使用してください。

◆顔写真

研究大会HPや研究大会抄録などに掲載予定のため、高解像度のものをご用意ください。

【手順2】 ポスターの提出

◆提出期間：2020年6月8日（月）～2020年6月19日（金）

◆提出方法：日本氷上スポーツ学会の専用フォーム（参加申込者に自動返信メールにて通知）から提出してください。

◆書式

通常のポスター発表の規定サイズ（横89cm×縦145cm以内 1枚 または A4サイズ10ページまでのスライド）で作成してください。

ポスター・スライドの容量は10MB以内に収まるようにしてください。

ポスター・スライドはPDF形式で保存して提出してください。

web発表での質疑応答は、メールを用いて質問者と発表者が直接やり取りを行います。

研究発表 1

大学体育会部員を対象にしたフィギュアスケートジャンプの回転不足判定判別精度に関する研究

○廣澤聖士（慶應義塾大学）、青木義満（慶應義塾大学）

回転不足の判別は、ときにオリンピック選手や競技経験を持つ解説者でも認識が異なる様子がメディアでも取り上げられている。競技規則に関する公的資料は限定的であり、競技者と技術役員の判定基準に差が生じている可能性がある。しかし、関連する調査報告は見当たらない。

本研究では大学部活動部員 14 名に国際大会の映像から計 100 個のジャンプを通常速度で見てもらい、回転不足の判別をしてもらった。競技結果を正解とし、正解率を集計した。平均正解率は 60.7% であり、最大値は 71%、最小値は 49% であった。特に 18 - 19 シーズンに基準が改定された Under-rotated のジャンプの正解率が最も低く、平均正解率は 46.4% であった。また、所持級・競技歴・技術指導状況それぞれの中央値で被験者を 2 群に分け、平均値の差の検定を行った。

所持級は 5% 水準では統計的有意差がみられなかった。競技歴は 5%、技術指導状況は 1% 水準で有意差を示した。自学が難しいため、インストラクターの技術指導の有無・頻度がより正解率に影響を与えた可能性がある。技術役員の判定基準を競技者が正確に理解できるための環境の整備が必要なのではないか。



研究発表 2

スケルトン競技におけるスタート動作の標準動作モデルからみた優れた選手の特徴

○小口貴久（日本体育大学大学院）、阿江通良（日本体育大学）

スケルトン競技では、スタートタイムを短縮させることが競技成績向上のための一つの要因である。しかし、スタート動作に関する研究は少なく、優れた選手の動きの特徴や指導のためのポイントは明らかになっていない。そこで本研究では、世界一流スケルトン選手のスタート動作の標準動作モデルを構築し、スタート動作指導のための基礎的知見を得ることを目的とした。2018 年にオーストリアで開催されたインターコンチネンタルカップおよびヨーロッパカップにおいて、選手のスタート動作を撮影した。得られた画像から三次元 DLT 法を用いて三次元座標値を算出し、スタートタイムの上位男子選手 11 名について、スタートブロックの離地から 3 歩目の離地までを時間で規格化して標準動作モデルを作成した。その標準動作モデルの動作変動度を算出した結果、2 歩目および 3 歩目の接地脚について、股関節、膝関節、足関節の動作変動度が減少していた。また、そりを押す側の肩関節および肘関節の動作変動度は、2 歩目以降に値が大きく減少していた。これらのことから、支持期の下肢関節およびそりを押す側の上肢関節は、世界一流選手のスタート動作で共通性が高い部分であることが示唆された。



フォーラム 1

2020年6月現在、新型コロナウイルス感染症の拡大は、氷上競技のアスリートたちにも様々な影響を与えている。そのような中で、氷上アスリートたちはどのような変化に直面し、何を考えたのか。そして、その変化に対応すべく、どのような工夫をしているのかを語り合う。

今後、新型コロナウイルス感染症との共存が求められるなかで、氷上アスリートは自らの歩む道をどのように切り拓くのか。そしてこれから、氷上スポーツはどのように変化していき、氷上スポーツは社会に対して何ができるのか。現在進行形の危機にある今、対話を重ねたい。(荒井弘和)

テーマ：新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート

登壇者：鈴木世奈（アイスホッケー）・友野一希（フィギュアスケート）

ファシリテーター：荒井弘和

登壇者プロフィール

鈴木世奈

1991年生まれ北海道苫小牧市出身
2010年北海道東高等学校卒業
2014年法政大学スポーツ健康学部卒業
現在は、ブリヂストンタイヤジャパン
ダイバーシティ推進部 所属

< 選手経歴 >

U18世界選手権をはじめ、2度のアジア冬季競技大会、7度の世界選手権を経験。

2013年には、世界最終予選で日本として初めて五輪への出場権を獲得。

2014年ソチ五輪、2018年平昌五輪へ出場。

< 所属チーム >

2005年～2010年岩倉ペリ格林（北海道）

2010年～西武プリンセスラビッツ（東京）

2015/16,2016/17,2018/19 シーズン カナダトップリーグ Toronto Furiessu

2019/2020 シーズン スウェーデンのトップリーグ AIK



友野一希

1998年5月15日生まれ
大阪府堺市出身
同志社大学スポーツ健康科学部 4年

< 主な実績 >

2018年世界選手権 5位

2018年グランプリシリーズロステレコム杯 3位

2020四大陸選手権選手権 7位

2016年全日本ジュニア選手権優勝



ファシリテータープロフィール

荒井 弘和

1975 年生まれ。

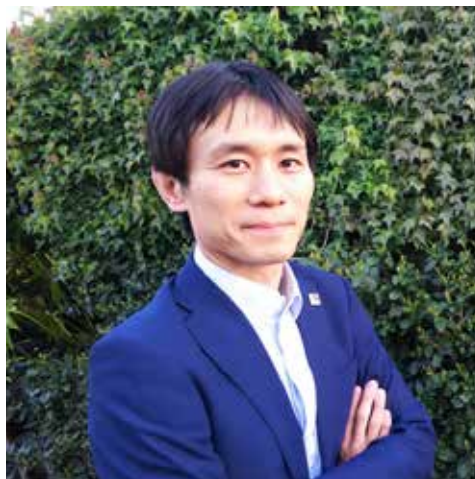
日本スポーツ心理学会認定・スポーツメンタルトレーニング上級指導士
法政大学文学部心理学科・教授

国立スポーツ科学センター客員研究員

日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポート事業 競技団体サポートスタッフ（心理）

最近の編著は「アスリートのメンタルは強いのか？（2020 年、晶文社）」

「グッドコーチになるためのココロエ（共編、2019 年、培風館）」



フォーラム 2

テーマ：氷上スポーツの用具特性

登壇者：

フィギュアスケートシューズの特性：武田 理（筑波大学スポーツ R&D コア）

スピードスケートシューズの特性：伊藤潤二（山梨学院大学 スケート部顧問）

スケルトンランナーの特性：進藤亮祐（日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟 スケルトン強化部強化部長代行）

登壇者プロフィール

武田 理

筑波大学大学院体育研究科スポーツ科学専攻修了

筑波大学スポーツ R&D コア研究員

スポーツバイオメカニクス、スポーツ用具工学

ヒトの動作と 3D プリンタを活用に着目した用具の研究がテーマ

2012 年ロンドンオリンピックのフェンシング男子フルーレが団体銀メダル獲得時のグリップ開発を担当

専門は陸上競技の棒高跳。



伊藤潤二

1985年：長野県出身
2008年：山梨学院大学法学部法学科 卒業
2011年：山梨大学大学院 教育学研究科 教科教育専攻 保健体育専修 修了
2011年～2014年：山梨県スポーツ協会（指導普及課、総務課に在籍）
2015年～2019年：山梨学院大学スケート部コーチ
2020年～：山梨学院大学スケート部監督就任

競技実績

2006年 全日本選抜ショートトラックスピードスケート選手権大会 総合優勝（以後1回）
2006年 全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会 1000m 優勝
2007年 アジア冬季競技大会 ショートトラックスピードスケート 5000m リレー 3位
2007年 世界ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会 出場（以後1回）
2009年 ユニバーシアード冬季大会ショートトラックスピードスケート 500m 3位



進藤亮祐

1990年生まれ。宮城県出身。
＜所属＞
日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟（スケルトン強化部 強化部長代行）
＜略歴＞
2013年仙台大学体育学部運動栄養学科 卒業
2015年仙台大学大学院スポーツ科学研究科 修了
2014年より「宮城ジュニア」修了生に対して、スケルトン競技を含む、発育発達に応じたトレーニング指導を開始
2015年より仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部コーチに就任し、大学生選手の競技力向上に向けたコーチングやサポートを実施している

現在は、日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟に所属、スケルトン競技に関わる強化活動・マネジメント並びに選手育成に携わっている

2020年は第3回ローザンヌ冬季ユースオリンピックにスケルトン競技コーチとして参加した



氷上スポーツは用具を用いて実施する競技がほとんどであり、氷上アスリートたちは用具を自身の身体のように扱うことで、その専門的スキルを発揮している。その用具は、素材やメーカーによって特性が大きく異なるため、選手の競技レベルやスキル特性、競技環境に応じた使い分けも必要である。氷上競技のトップアスリートは、用具の提供等によりその使い分けをできる機会があるが、学生アスリートはそのような機会を得ることは難しいであろう。

本フォーラムでは、フィギュアスケートとスピードスケート、スケルトンの用具特性を研究者・コーチから情報提供を頂き、学生アスリートが用具を選択する際の一つの参考情報になることを目指した。本フォーラムが学生競技者に役立つ情報となれば幸いである。

（文責：竹内洋輔・小口貴久・若林勇太）

Eat Well, Live Well.

Aji
AJINOMOTO



陸上競技
山縣 亮太

スポーツに、サイエンスを。

スポーツは教えてくれた。

私たちがスポーツから教わった大切なこと。
今だからこそ思い出してみませんか？

amino
VITAL
アミノバイタル

wattbike

THE POWER TO PERFORM

WATTCYCLING.JP / 03-3421-5354

@Wattbike f/WattbikeJapan /Wattbike



セルフモニタリングで効果の確認ができる

4DMOTION 慣性センサー式 モーションキャプチャ
(フォーディーモーション)



センサーイメージ

- 防水
- リアルタイム
- 簡単



足圧計をよりスマートに

運動時の
体重移動を可視化



リアルタイム
振動フィードバック



防水
認証 (IP68)



マグネットソケットの
簡単な充電ケーブル



商品詳細ページは
こちら！



SALTED SALTED SMART INSOLE
(ソルティドスマートインソール)



☞ ホームページはこちら

株式会社ノビテック

【輸入・販売代理店】

お問合せ先

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-18-18 東急不動産恵比寿ビル 7 階
Tel : 03-3443-2633 e-Mail : sales@nobby-tech.co.jp